

平成 25 年 6 月 1 日発行

有明ニュース

平成25年 6月号 No.16



がん研有明病院



〈当院正面玄関〉

消化器内科（肝胆膵）紹介

肝胆膵内科 副部長 石井 浩



肝胆膵内科は、肝癌、胆道癌、膵癌（肝胆膵癌）の臨床診断と非手術療法（主として薬物療法）を担当しています。三本柱は薬物療法、IVR、胆膵内視鏡になります（図1）。

肝胆膵内科の取り組みと方向性

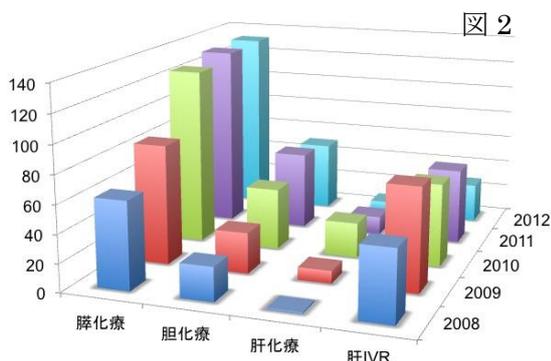


図 1

1. 薬物療法

かつては手術しか有効な治療がなかった肝胆膵癌の領域も、近年有効な薬物療法が次々に開発され、治療成績は徐々ではありますが確実に向上しています。私たちは最新の標準治療（肝細胞癌：ソラフェニブ、胆道癌：ゲムシタビン+シスプラチン、膵癌：ゲムシタビン+エルロチニブなど）をいち早く導入し、多数の実地診療経験を重ねてきました（図2）。しかし、その治療成績は未だ満足できるレベルではなく、さらに有効な新規治療の開発が必要です。このような治療開発はがん専門病院の大切な使命であり、私たちは全員が臨床研究を大切にする科学的マインドを持

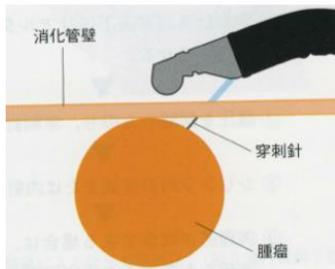
新規治療導入・年次推移



つよう心がけています。名人芸や職人技が通用しない進行がん薬物療法の領域では、多くの病院が協力しておおぜいの患者さんの参加のもとに臨床研究を行います。私たちは日本臨床腫瘍研究グループ（JCOG）や日本がん臨床試験推進機構（JACCRO）の主要メンバー施設として、多数の多施設共同試験や治験に積極的に参加し、新規治療開発に貢献しています（図3）。

2. IVR

肝細胞癌に対する局所壊死療法（ラジオ波焼灼、エタノール注入）は内科で担当できる数少ない根治の期待できる治療です。また、血管塞栓化学療法は抗腫瘍効果が高く、症例によっては根治が期待できる治療です。このようなガイドラインに準拠した標準治療を



いかに上手に行うかは、サイエンスではなくアートです。私たち内科は豊富な経験と知識のもとに、標準治療をどこの病院よりも洗練したかたちで提供します。また、このようにして得られた多数の貴重な実地診療経験を再度見直すことにより、前向きな臨床研究の核となる臨床的疑問を創出し、多施設共同会議で臨床研究のコンセプトを積極的に提案しています。

3. 胆膵内視鏡

閉塞性黄疸は胆膵癌発見の契機になりますが、手術や薬物療法などの治療を安全に行うためには減黄による肝庇護が重要です。かつては経皮的にドレナージチューブを挿入することが少なくありませんでしたが、近年は侵襲が少なくより生理的ルートである内視鏡的ドレナージ・ステントが第一選択になっています。また、確定

図4

診断目的の組織生検も、内視鏡下穿刺生検（EUS-FNA：図4）がかつての経皮的針生検から完全に主役の座を奪っています。このような胆膵内視鏡手技には極めて高度な技術と豊かな経験が必要です。幸い私たちの施設では、豊富な症例と熟練の指導医のもとでトレーニングを希望する若手が集まりつつあり、今後の展開に期待が寄せられています（図5）。

Study Oriented 臨床試験

図3

	進行中	準備中
医師主導治験 (ペプチドワクチン)	2 (2)	-
企業主導治験 (ペプチドワクチン)	5 (1)	1
多施設共同試験 (先進医療)	5 (1)	3 (1)

Best Practice 胆膵内視鏡の取り組み

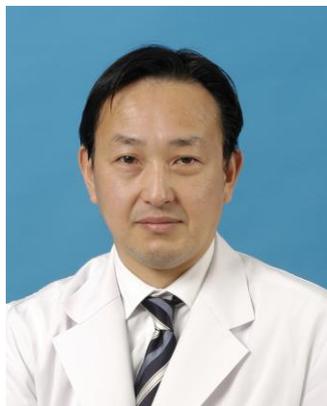
図5

- ❖ 悪性胆道・消化管狭窄に対する内視鏡的ステント留置術
- ❖ 術前胆道ドレナージ→肝胆膵外科との連携
- ❖ 超音波内視鏡下穿刺生検(EUS-FNA)
- ❖ 再建腸管に対するERCP(小腸内視鏡)
- ❖ EUS-FNA: 正診率 95.4% 偶発症1例のみ。
- ❖ ERCP: 手技成功率 99% 重篤な合併症1例(重症膵炎)

	H22	H23	H24
ERCP	285	316	342
EUS	267	256	295
EUS-FNA	76	43	65

肝胆膵外科の紹介

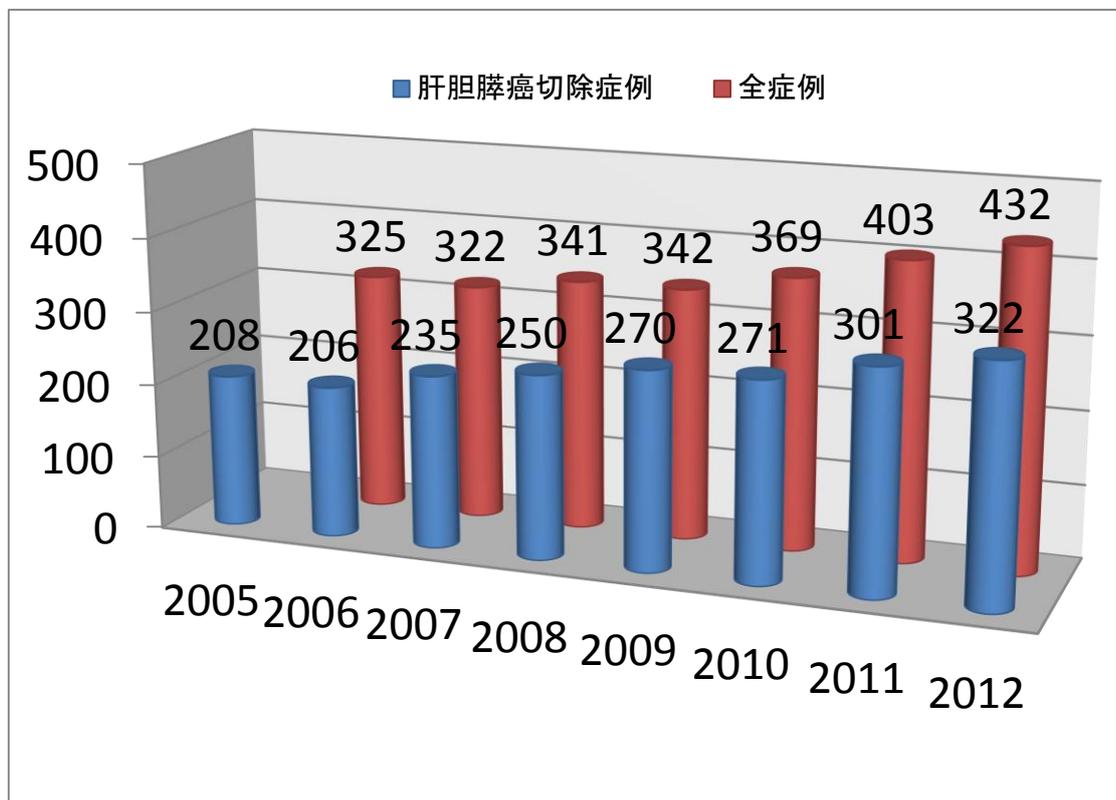
肝胆膵外科部長 齋浦 明夫



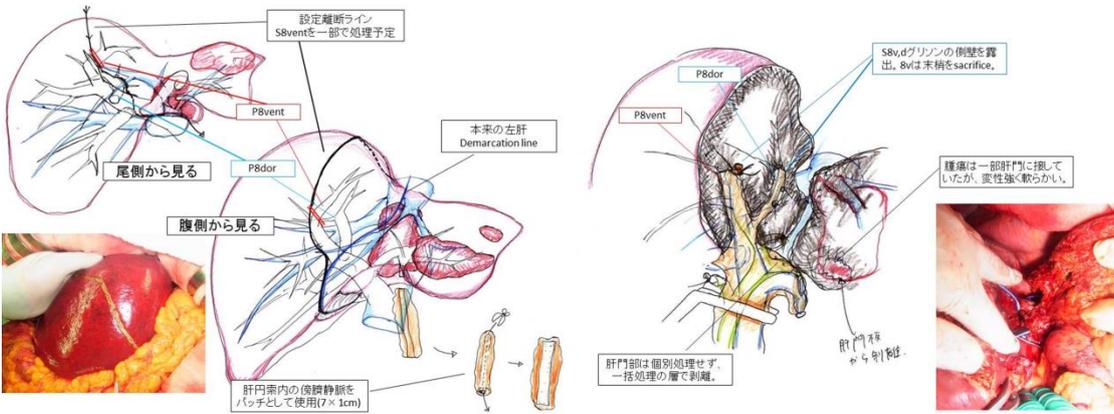
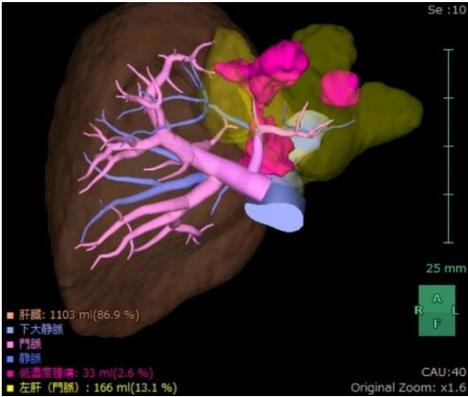
がん研有明病院消化器外科 肝胆膵外科ではスタッフ 3 名を含む 8 名の医師（2013 年 5 月現在）の体制で診療しております。技術と体力を要する高難度手術に対して全員 50 歳以下の若いチームで日々全力で取り組んでいます。標準治療を基本にしつつ、新たな手術、治療法を開発し、一人でも多くの難治癌の患者さんを救いたいと考えております。また 当院の特徴でもあるチーム医療を推進し、集学的治療で切除不能癌の根治を目指しています。手術症例数はこの毎年増加しています（図 1）。日本肝胆膵外科学会が定める肝胆膵高難度手術をもっとも多く施行している施設を

認定する修練施設(A)になっております。認定条件は 1 年間に高難度肝胆膵外科手術を 50 例以上行っていることですが、がん研有明病院では年間約 200 症例の高難度肝胆膵外科手術を施行しております。また、進行の速い肝胆膵癌に対し、迅速かつ正確な診断を行い速やかに治療を開始します。手術が必要な患者さんに対しては必ず 1 か月以内に手術をしております。

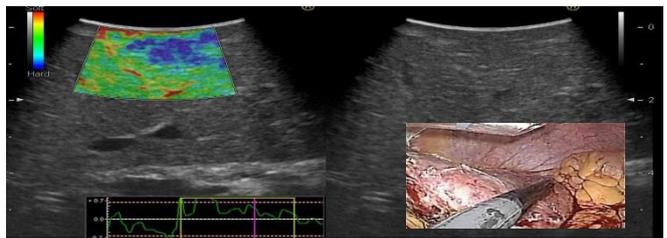
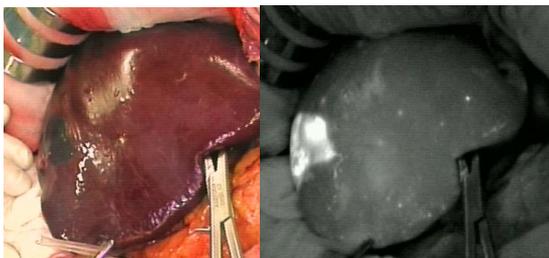
図 1 肝胆膵外科全手術症例数の推移



日々の臨床現場から新しい知見を発信します。切除不能と診断されそうな症例でも技術を駆使して切除しております。以下は切除不能多発大腸癌肝転移の患者さんですが、化学療法と血管合併切除拡大肝切除により根治術を施行し、治癒を目指しています。



また常に新しい技術を取り入れ、新たな手術の開発をしております。従来では見えなかったものを可視化したり、触れないものを触る技術の開発も行っています。



ICG 蛍光法

エラストグラフィ

近赤外線カメラで ICG の
励起光を観察

対象の「硬さ」を
画像化・数値化

第2回がん研有明病院紹介セミナー後記

平成25年2月20日(水)、がん研有明病院へ患者さんをご紹介いただいている医療機関の先生・職員の方を対象に「顔の見える連携を実現する」をスローガンに、“がん研有明病院紹介セミナー”を開催いたしました。



第1部の講演会の後、第2部の情報交換会では、当院の医師がお越しいただいた先生や看護師、また事務の方達と活発に情報交換をされている様子を伺う事が出来ました。懇親会会場については、計画時に十分なスペースを取ったと思っていたのですが、多くの方にご参加いただきまして、なかなか先に進めない程の混みようで、その熱気にびっくりし嬉しい汗もかきました。

実際にご来賓の方に今回のセミナーの感想をお聞きしたのですが、「講演内容は大変興味があるが講演時間が少なく感じた」「もっと時間に余裕を持ってじっくり聞いてみたい」「がんけんキャンサーねっとについてもっと詳しく聞きたい」などのご意見をいただき、強い手ごたえを感じました。

前回と同じように、今回も各科が趣向を凝らしたポスターを展示することができ、その仕上がりに当院の職員もそのポスターに見入る様子うかがえました。またセミナー終了後、このポスターを当院にお越しになる患者さんにもご覧頂くために、1Fフロアに展示いたしました。多くの患者さんがポスターを見ている姿を見て、いろいろな形で当院の事を広報することの重要性を実感しました。

今後も病院紹介セミナーを通じて顔の見える連携を実践していきたいと思っております。是非次回開催の際にも、多くの先生方のご参加をお願いいたします。



お知らせ

グランドカンファランスのお知らせ

当院では、コメディカルも含めたMDT(multi-disciplinary team)meetingとして、毎月1回(原則第4火曜日 18:00~19:30)グランドカンファランスを行っています。
診断ー病理所見ー治療ー病理所見ー結果(予後)といった全体の流れを重視し、各診療科が輪番で症例を選択しています。
また、毎回会終了後にアンケートを実施し、出席者満足度などを調査し、常に改善を図っています。

近隣の医師会および外部施設の方にもご参加いただき、がん研有明病院の診療を第三者から評価してもらい、さらに連携を深める機会とさせていただきたいと考えております。
ぜひご参加ください(事前申込みは必要ありません)。

詳細は、当院ホームページ お知らせ「医療関係者の方」をご覧ください。

医療連携課のご案内

医療連携課では、医療機関の先生方からご紹介をいただいた患者さんの診察・セカンドオピニオンの予約調整を行っております。また、経過報告書の管理、診察に関するご案内等を行っております。お問い合わせの窓口としてご信頼いただけますように、迅速・確実な対応を心がけてまいります。ご紹介は、下記の電話・FAXでお申込みいただけます。(患者さん自身でお電話いただき予約することもできます。)

電話 : 03-3570-0506(医療機関様用)

03-3570-0541(患者様用)

FAX : 03-3570-0254

《編集後記》

患者さんへのアンケートを行うと、多くの方から診察や検査の待ち時間についてのご意見を頂きます。限られた時間内に大勢の患者さんを診なければならぬので、簡単に解消できる問題ではないのですが、業務の見直しを検討し、また後どれくらい待てばよいか情報を提供することによりサービスの向上を図っています。よりよい病院にしていくため、今後とも努力してまいります。(石井)



公益財団法人 がん研究会有明病院

発行: 医療連携課

〒135-8550 東京都江東区有明3-8-31

TEL 03-3570-0506 FAX 03-3570-0254 (E-mail):renkei@jfcr.or.jp

ホームページアドレス: <http://www.jfcr.or.jp/hospital/>